

## 初期キャリア研究者支援—未来へのつながりを意識して

研究支援委員会 委員 島崎 剛(久留米大学)



現在研究支援委員会では、初期キャリア研究者に対する研究支援の一環としてスタートアップシンポジウムを企画運営しています。同企画は、日本社会福祉学会秋季大会時に開催しており、初期キャリア研究者を取り巻く諸課題をテーマとして取り扱うことで、会員・非会員を問わず、多様な初期キャリア研究者と社会福祉学の学界とのハブ機能を担っています。

去る10月26日、日本福祉大学を大会校として開催された日本社会福祉学会第72回秋季大会では、「実践と研究の循環を考える」という壮大ともいえるテーマのもと、シンポジウムを開催しました。参加者は102名(非会員20名、関係者除く)であり、例年にも増した関心の高まりを感じました。

当日は、名古屋市立大学大学院の谷口由希子先生をコメンテーターとしてお迎え、「実践者としての立場を持つ初期キャリア研究者」として木佐貫悦子様(愛知県保健医療局こころの健康推進室通報対応グループ主査)、「実践経験を持たない初期キャリア研究者」として松本大樹様(日本福祉大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程)、「研究対象としての経験がある社会福祉実践者」として山本綾子様(三重県松阪保健所保健衛生室地域保健課課長代理)の3名のシンポジストからの発題をうけ、研究支援委員会委員長の山野則子先生(大阪公立大学)のコーディネートにより、熱のこもった議論が展開されました。

実践と研究の循環は、実践の科学化を志向する側面を持つ社会福祉学にとって重要な意義を持ちます。そこで、研究へ取り組む初期キャリアの段階においてその意義を意識する機会を持つことは、研究者としての責任を自覚するうえで重要であり、本シンポジウム企画におけるテーマの着想にあたって根幹となる問題認識でした。

他方、社会福祉学の学問領域で研究を志す初期キャリア研究者は、ストレートマスターよりもむしろ実践者の立場や、一定程度の実践経験を経た立場を持つ研究者が多く存在します。「実践の効果を証明したい」「実践を理論化したい」「科学的根拠を持って実践したい」など、それぞれに研究の道を歩む志を持っています。しかし、基礎的研究に着手するなかで苦悩し、初志を貫くことが困難な状況となる初期キャリア研究者も見受けられます。研究支援委員会でこれまで取組んできた各種企画では、以上のような初期キャリア研究者の多くの苦労や悩みを共有してきました。今回の企画は、「未来へ繋がる意識を持つ」というシンポジウムを総括したメッセージへ込められたように、多様な立場に置かれる初期キャリア研究者の研究意欲を刺激する機会となったのではないかと思います。

研究支援委員会では、今後も研究支援に関する企画を提案するとともに、初期キャリア研究者の主体的な参画を促すことで、活動の活性化を図りたいと考えています。早速ですが、12月21日には第5回CS-NETサロン「サロンを企画してみませんか?」を予定しています。同志社大学今出川キャンパスを会場として、ハイブリッドで開催します。学会ホームページに案内を掲載していますので、ぜひご参加もしくはお声かけいただけますと幸いです。

最後に、スタートアップシンポジウムの実施にあたり、日本社会福祉学会第72回秋季大会の大会

校として諸々のご準備とご配慮をいただいた日本福祉大学の先生方、積極的にサポートして下さった学生スタッフの皆様、この場をお借りして感謝申し上げます。

学会会員の皆様におかれましては、今後とも研究支援委員会の活動にご理解とご協力をいただきますと幸いです。